



タイトル「**2024年度危機管理学部(公開用)**」、フォルダ「**危機管理学部**」
シラバスの詳細は以下となります。



科目ナンバー	RMGT3506		
科目名	災害史		
担当教員	秦 康範		
対象学年	2年,3年,4年	開講学期	前期
曜日・時限	水 4		
講義室	1502	単位区分	選
授業形態	講義	単位数	2
科目大分類	専門		
科目中分類	専門展開		
科目小分類	専門・危機管理		
科目の位置付け (開発能力)	<p>■ D Pコード-学修のゴールを示すディプロマポリシーとの関連</p> <p>D P 1 – E [学識・専門技能] 専門分野にかかる理論知と実践知を獲得し利用することができる。</p> <p>D P 4 – I [理解力・分析力] 文章表現・数値データを適切に扱いつつ、情報の収集と取捨選択、分析と加工を有効かつ円滑に行い、問題の解決につなげることができる。</p> <p>■ C Rコード-学修を通じて開発するマインドセット・ナレッジ・スキルを示すコモンルーブリック (C R) との関連</p> <p>C1 倫理的思考・社会認識 (10%)</p> <p>E1 学識と専門技能 (50%)</p> <p>G1 状況把握 (10%)</p> <p>H1 論理的思考 (10%)</p> <p>I3 情報分析 (20%)</p>		
教員の実務経験	<p>国や地方公共団体の研究機関である人と防災未来センター (2002年～2005年) や防災科学技術研究所 (2005年～2007年) の研究員として防災行政に係る研修や研究に従事した経験から、2003年以降、国、地方公共団体の防災行政に係る審議会・委員会等を歴任して来ました。これらの業務を通じて得られた実務上の知見や経験を活かし、本講義を展開していきます (第1回～第15回)。</p>		
成績ターゲット区分	<p>■成績ターゲット 能力開発の目標ステージと対応</p> <p>3 発展期 ～ 4 定着期</p>		
科目概要・キーワード	<p>日本を中心に世界で発生した様々な災害の歴史を学ぶ。地震や津波、火山活動、台風、洪水などによる自然災害、大規模事故などの人為的災害の事例を挙げながら、これらの歴史を考察する。災害が発生してどのような被害が発生したか、そこで人々は何をしたのか、どんな問題が起きたのか、情報やメディアは機能していたのか、その後どのようなことが行われたのか、などについて過去の事例から、現代の課題を発見し、未来の災害対策に活かすことを目的とする。</p> <p>授業形態は原則はオンライン授業で行い、開講曜日・時限に授業動画配信及び課題等を提示します。新型コロナウイルス感染の状況によっては、対面授業を行うこともあります。</p> <p>授業形態は講義形式により行います。なお、対応するコンピテンスに基づき効果的な授業方法として、又は各授業を補完・代替するためオンライン授業を一部取り入れる場合があります。</p> <p>■キーワード：災害、歴史、地震</p>		
授業の趣旨	<p>■副題</p> <p>災害の歴史を通して教訓を学ぶ</p> <p>■授業の目的</p> <p>災害の歴史について主に国内の事例を基に解説をします。その事例から、災害対応の知識や</p>		

	<p>問題点を学び、その知を危機管理の現場で活かせることができるようになることを目的としています。</p> <p>■授業のポイント</p> <p>災害の歴史を概観する。災害・大規模事故の対策や危機管理を学ぶ上で必要な、これまでの主な災害と、その災害への対応、その災害の問題などについての知識を得ることを目指しています。</p>												
総合到達目標	<p>単に危機管理について専門的に学ぶのではなく、これまでの災害の大まかな歴史についての知識を得ることにより、奥行きのある学習や研究をすることの基本を身につけ、学識・専門技能や探究力、問題解決力を養う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害の歴史についての概説ができる。 ・過去の災害について共通項と差異を説明できる。 ・過去の災害対応を現在の災害対応に適応させて解決策を提示できる。 ・過去の災害から現在の災害対応の問題点を提示できる。 												
成績評価方法	<p>■授業参加度（50%）：適用ルーブリック C1、H1、I3 （評価の観点）災害の危機管理に必要な基礎知識を習得して、課題を理解し、分析力を身につけるための授業への参加度を評価します。 （フィードバックの方法）授業の中でフィードバックします。</p> <p>■レポート1回（50%）：適用ルーブリック E1 （評価の観点）災害の危機管理に関する基礎的な知識を習得し、地域防災のあり方について学識と分析力を評価します。 （フィードバックの方法）後日評価の観点を示します。</p>												
履修条件	特にありません。												
履修上の注意点	特にありません。												
授業内容	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td> <p>①授業のテーマ 災害史概説</p> <p>②授業概要 災害史の概要を学び(E1)、それらの流れが説明できるようになる (C1、H1、I3)。 担当教員の実務経験を踏まえて指導します。</p> <p>③予習 (120分) 参考書や既往文献により災害史の概要について予備知識を得ておく。</p> <p>④復習 (120分) 講義ノートを確認して、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。</p> </td> </tr> <tr> <td>2</td> <td> <p>①授業のテーマ 相模トラフ巨大地震</p> <p>②授業概要 1703年元禄関東地震や1923年大正関東地震について学び (E1)、それぞれの特性などについて説明できるようになる (C1、H1、I3)。 担当教員の実務経験を踏まえて指導します。</p> <p>③予習 (120分) 参考書や既往文献により相模トラフ巨大地震について予備知識を得ておく。</p> <p>④復習 (120分) 講義ノートを確認して、相模トラフ巨大地震について、自分なりの説明をまとめる。</p> </td> </tr> <tr> <td>3</td> <td> <p>①授業のテーマ 南海トラフ地震</p> <p>②授業概要 南海トラフ沿いで発生した過去の地震について学び (E1)、それらの災害から生じた問題点が説明できるようになる (C1、H1、I3)。 担当教員の実務経験を踏まえて指導します。</p> <p>③予習 (120分) 参考書や既往文献により南海トラフ地震について予備知識を得ておく。</p> <p>④復習 (120分) 講義ノートを確認して、南海トラフ地震について、自分なりの説明をまとめる。</p> </td> </tr> <tr> <td>4</td> <td> <p>①授業のテーマ 三陸津波</p> <p>②授業概要 三陸地方を襲う津波災害 (1611年慶長三陸津波、1896年明治三陸地震津波、1933年昭和三陸津波、1960年チリ地震津波) について学び (E1)、それらの災害から生じた問題点が説明できるようになる (C1、H1、I3)。 担当教員の実務経験を踏まえて指導します。</p> <p>③予習 (120分) 参考書や既往文献により三陸津波について予備知識を得ておく。</p> <p>④復習 (120分) 講義ノートを確認して、三陸津波について、自分なりの説明をまとめる。</p> </td> </tr> <tr> <td>5</td> <td> <p>①授業のテーマ 歴史的な内陸直下地震</p> <p>②授業概要 歴史的な内陸直下地震 (1596年慶長伏見地震、1847年善光寺地震、1855年飛騨地震、1891年濃尾地震) について学び (E1)、それらの災害から生じた問題点が説明できるようになる (C1、H1、I3)。</p> </td> </tr> </tbody> </table>	回	内容	1	<p>①授業のテーマ 災害史概説</p> <p>②授業概要 災害史の概要を学び(E1)、それらの流れが説明できるようになる (C1、H1、I3)。 担当教員の実務経験を踏まえて指導します。</p> <p>③予習 (120分) 参考書や既往文献により災害史の概要について予備知識を得ておく。</p> <p>④復習 (120分) 講義ノートを確認して、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。</p>	2	<p>①授業のテーマ 相模トラフ巨大地震</p> <p>②授業概要 1703年元禄関東地震や1923年大正関東地震について学び (E1)、それぞれの特性などについて説明できるようになる (C1、H1、I3)。 担当教員の実務経験を踏まえて指導します。</p> <p>③予習 (120分) 参考書や既往文献により相模トラフ巨大地震について予備知識を得ておく。</p> <p>④復習 (120分) 講義ノートを確認して、相模トラフ巨大地震について、自分なりの説明をまとめる。</p>	3	<p>①授業のテーマ 南海トラフ地震</p> <p>②授業概要 南海トラフ沿いで発生した過去の地震について学び (E1)、それらの災害から生じた問題点が説明できるようになる (C1、H1、I3)。 担当教員の実務経験を踏まえて指導します。</p> <p>③予習 (120分) 参考書や既往文献により南海トラフ地震について予備知識を得ておく。</p> <p>④復習 (120分) 講義ノートを確認して、南海トラフ地震について、自分なりの説明をまとめる。</p>	4	<p>①授業のテーマ 三陸津波</p> <p>②授業概要 三陸地方を襲う津波災害 (1611年慶長三陸津波、1896年明治三陸地震津波、1933年昭和三陸津波、1960年チリ地震津波) について学び (E1)、それらの災害から生じた問題点が説明できるようになる (C1、H1、I3)。 担当教員の実務経験を踏まえて指導します。</p> <p>③予習 (120分) 参考書や既往文献により三陸津波について予備知識を得ておく。</p> <p>④復習 (120分) 講義ノートを確認して、三陸津波について、自分なりの説明をまとめる。</p>	5	<p>①授業のテーマ 歴史的な内陸直下地震</p> <p>②授業概要 歴史的な内陸直下地震 (1596年慶長伏見地震、1847年善光寺地震、1855年飛騨地震、1891年濃尾地震) について学び (E1)、それらの災害から生じた問題点が説明できるようになる (C1、H1、I3)。</p>
回	内容												
1	<p>①授業のテーマ 災害史概説</p> <p>②授業概要 災害史の概要を学び(E1)、それらの流れが説明できるようになる (C1、H1、I3)。 担当教員の実務経験を踏まえて指導します。</p> <p>③予習 (120分) 参考書や既往文献により災害史の概要について予備知識を得ておく。</p> <p>④復習 (120分) 講義ノートを確認して、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。</p>												
2	<p>①授業のテーマ 相模トラフ巨大地震</p> <p>②授業概要 1703年元禄関東地震や1923年大正関東地震について学び (E1)、それぞれの特性などについて説明できるようになる (C1、H1、I3)。 担当教員の実務経験を踏まえて指導します。</p> <p>③予習 (120分) 参考書や既往文献により相模トラフ巨大地震について予備知識を得ておく。</p> <p>④復習 (120分) 講義ノートを確認して、相模トラフ巨大地震について、自分なりの説明をまとめる。</p>												
3	<p>①授業のテーマ 南海トラフ地震</p> <p>②授業概要 南海トラフ沿いで発生した過去の地震について学び (E1)、それらの災害から生じた問題点が説明できるようになる (C1、H1、I3)。 担当教員の実務経験を踏まえて指導します。</p> <p>③予習 (120分) 参考書や既往文献により南海トラフ地震について予備知識を得ておく。</p> <p>④復習 (120分) 講義ノートを確認して、南海トラフ地震について、自分なりの説明をまとめる。</p>												
4	<p>①授業のテーマ 三陸津波</p> <p>②授業概要 三陸地方を襲う津波災害 (1611年慶長三陸津波、1896年明治三陸地震津波、1933年昭和三陸津波、1960年チリ地震津波) について学び (E1)、それらの災害から生じた問題点が説明できるようになる (C1、H1、I3)。 担当教員の実務経験を踏まえて指導します。</p> <p>③予習 (120分) 参考書や既往文献により三陸津波について予備知識を得ておく。</p> <p>④復習 (120分) 講義ノートを確認して、三陸津波について、自分なりの説明をまとめる。</p>												
5	<p>①授業のテーマ 歴史的な内陸直下地震</p> <p>②授業概要 歴史的な内陸直下地震 (1596年慶長伏見地震、1847年善光寺地震、1855年飛騨地震、1891年濃尾地震) について学び (E1)、それらの災害から生じた問題点が説明できるようになる (C1、H1、I3)。</p>												

	<p>担当教員の実務経験を踏まえて指導します。</p> <p>③予習（120分） 参考書や既往文献により歴史的な内陸直下地震について予備知識を得ておく。</p> <p>④復習（120分） 講義ノートを確認して、歴史的な内陸直下地震について、自分なりの説明をまとめる。</p>
6	<p>①授業のテーマ 昭和の地震</p> <p>②授業概要 昭和の地震（1948年福井地震、1964年新潟地震、1978年宮城県沖地震、1983年日本海中部地震、1984年長野県西部地震）について学び（E1）、それらの災害から生じた問題点が説明できるようになる（C1、H1、I3）。</p> <p>担当教員の実務経験を踏まえて指導します。</p> <p>③予習（120分） 参考書や既往文献により昭和の地震について予備知識を得ておく。</p> <p>④復習（120分） 講義ノートを確認して、昭和の地震について、自分なりの説明をまとめる。</p>
7	<p>①授業のテーマ 阪神・淡路大震災</p> <p>②授業概要 1995年阪神・淡路大震災について学び（E1）、それらの災害から生じた問題点が説明できるようになる（C1、H1、I3）。</p> <p>担当教員の実務経験を踏まえて指導します。</p> <p>③予習（120分） 参考書や既往文献により阪神・淡路大震災について予備知識を得ておく。</p> <p>④復習（120分） 講義ノートを確認して、阪神・淡路大震災について、自分なりの説明をまとめる。</p>
8	<p>①授業のテーマ 東日本大震災</p> <p>②授業概要 2011年東日本大震災について学び（E1）、それらの災害から生じた問題点が説明できるようになる（C1、H1、I3）。</p> <p>担当教員の実務経験を踏まえて指導します。</p> <p>③予習（120分） 参考書や既往文献により東日本大震災について予備知識を得ておく。</p> <p>④復習（120分） 講義ノートを確認して、東日本大震災について、自分なりの説明をまとめる。</p>
9	<p>①授業のテーマ 昭和の台風</p> <p>②授業概要 昭和の地震（1934年室戸台風、1947年カスリーン台風、1959年伊勢湾台風）について学び（E1）、それらの災害から生じた問題点が説明できるようになる（C1、H1、I3）。</p> <p>担当教員の実務経験を踏まえて指導します。</p> <p>③予習（120分） 参考書や既往文献により昭和の台風について予備知識を得ておく。</p> <p>④復習（120分） 講義ノートを確認して、昭和の台風について、自分なりの説明をまとめる。</p>
10	<p>①授業のテーマ 長崎豪雨</p> <p>②授業概要 1982年長崎豪雨について学び（E1）、それらの災害から生じた問題点が説明できるようになる（C1、H1、I3）。</p> <p>担当教員の実務経験を踏まえて指導します。</p> <p>③予習（120分） 参考書や既往文献により長崎豪雨について予備知識を得ておく。</p> <p>④復習（120分） 講義ノートを確認して、長崎豪雨について、自分なりの説明をまとめる。</p>
11	<p>①授業のテーマ 平成の風水害</p> <p>②授業概要 平成の風水害（1998年東日本豪雨、2000年東海豪雨、2003年水俣市土石流災害、2004年新潟・福島豪雨、2004年福井豪雨、2009年台風9号、2011年新潟・福島豪雨、2017年九州北部豪雨、2018年西日本豪雨）について学び（E1）、それらの災害から生じた問題点が説明できるようになる（C1、H1、I3）。</p> <p>担当教員の実務経験を踏まえて指導します。</p> <p>③予習（120分） 参考書や既往文献により平成の風水害について予備知識を得ておく。</p> <p>④復習（120分） 講義ノートを確認して、平成の風水害について、自分なりの説明をまとめる。</p>
12	<p>①授業のテーマ 令和の風水害</p> <p>②授業概要 令和の風水害（2019年台風15号、2019年台風19号、2020年7月熊本豪雨）について学び（E1）、それらの災害から生じた問題点が説明できるようになる（C1、H1、I3）。</p> <p>担当教員の実務経験を踏まえて指導します。</p> <p>③予習（120分） 参考書や既往文献により令和の風水害について予備知識を得ておく。</p>

	④復習（120分） 講義ノートを確認して、令和の風水害について、自分なりの説明をまとめる。
13	①授業のテーマ 富士山噴火の歴史 ②授業概要 富士山噴火の歴史について学び（E1）、それらの災害から生じた問題点が説明できるようになる（C1、H1、I3）。 担当教員の実務経験を踏まえて指導します。 ③予習（120分） 参考書や既往文献により富士山噴火の歴史について予備知識を得ておく。 ④復習（120分） 講義ノートを確認して、富士山噴火の歴史について、自分なりの説明をまとめる。
14	①授業のテーマ 火山噴火の歴史 ②授業概要 火山噴火の歴史（浅間山、有珠山、雲仙普賢岳、磐梯山、桜島）について学び（E1）、それらの災害から生じた問題点が説明できるようになる（C1、H1、I3）。 担当教員の実務経験を踏まえて指導します。 ③予習（120分） 参考書や既往文献により火山噴火の歴史について予備知識を得ておく。 ④復習（120分） 講義ノートを確認して、火山噴火の歴史について、自分なりの説明をまとめる。
15	①授業テーマ 災害史のまとめ ②授業概要 14回の授業での学びを総括し、わが国で発生した歴史的な地震、津波、風水害、火山噴火に関するまとめの考察を行う（C1、E1、H1、I3）。 担当教員の実務経験を踏まえて指導します。 ③予習（120分） 講義ノート全体を読み直し、各テーマについて自分の考えをもとに論じられるように準備する。 ④復習（120分） 全体を振り返り、自分の考えを再検証するとともに、今後の学習方針について考える。
関連科目	災害対策論RMGT3501、災害情報論RMGT3502、自然災害論RMGT3503
教科書	使用しません。
参考書・参考URL	伊藤和明『地震と噴火の日本史』（岩波新書・2002）、寒川旭『地震の日本史』（中公新書・2011）、磯田道史『天災から日本史を読みなおす』（中公新書・2014）、吉村昭『新装版 関東大震災』（文春文庫・2004）、吉村昭『三陸海岸大津波』（文春文庫・2004）、高橋裕『国土の変貌と水害』（岩波新書・1971）、高橋裕『川と国土の危機』（岩波新書・2012）、宮村忠『水害』（中公新書・1985）、池谷浩『土石流災害』（岩波新書・1999）、池谷浩『火山災害』（岩波新書・2003）
連絡先・オフィスアワー	■連絡先：開講時に告知します。 ■オフィスアワー：掲示板にてお知らせします。メールにて事前にアポイントメントをとってください。
研究比率	■危機管理領域との対応 災害マネジメント70%；パブリックセキュリティ10%；グローバルセキュリティ10%；情報セキュリティ10% ■危機管理学と法学のバランス 危機管理学90%、法学10%

